

令和4年産

仙南稲作情報（第5号）

令和4年7月21日発行

宮城県大河原農業改良普及センター

TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138

※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

○6月後半～7月初めの好天により、稲の生育は回復傾向、出穂期は平年並の見込み（南部平坦は7月28日頃から）。

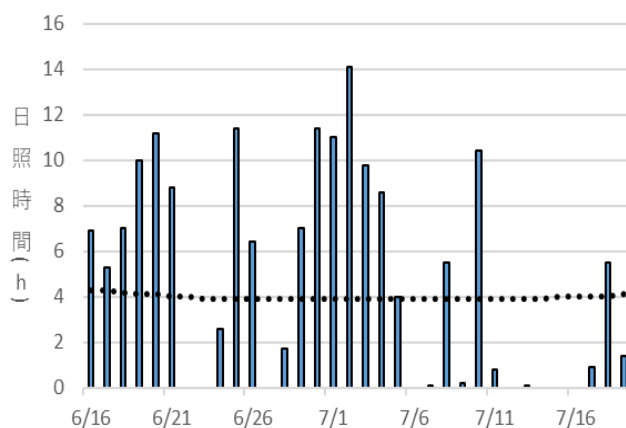
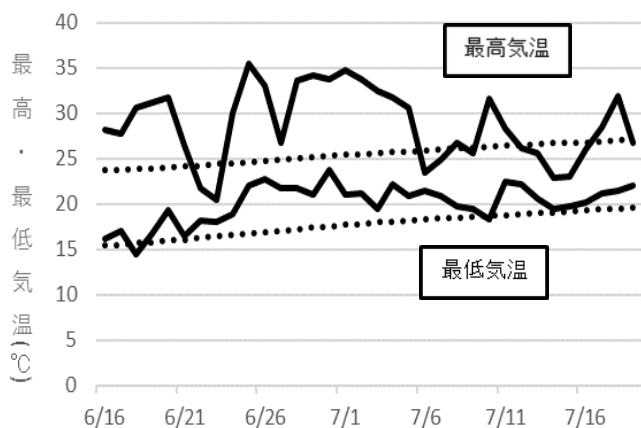
○南部平坦では、出穂が近づいています、間断かん水を実施しましょう。

○減数分裂期追肥は、適切に実施しましょう！

○穂揃期には斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう！

1 気象経過（丸森アメダス，7月1日～7月19日）

- ・6月後半から7月5日までは、最高気温及び最低気温ともに平年より高く推移したが、7月6日以降は最高気温がやや低い時期もあったが、概ね平年並みに経過した（平均気温は平年差+0.5℃）。
- ・日照時間は7月上旬は多めであったが、中旬は少なめであった。降水量は13日にまとまった降雨があり（丸森51.5 mm，蔵王127.5 mm），降水量は多めであった。



※仙台管区气象台（7/14発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

2 管内の生育状況

【7月20日調査結果】

（水稻生育調査ほ結果）

- ・南部平坦の「ひとめぼれ」生育調査ほは、幼穂長が角田市は約49mm，大河原町は約92mmで、「穂ばらみ期」を迎え、出穂期が近づいています。
- ・南部平坦の「つや姫」調査ほは、5月上旬植えは、幼穂長が約15mmで、間もなく「減数分裂期」を迎えます。5月下旬植えで、幼穂長が約5mmで「幼穂形成期」を過ぎています。
- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、幼穂長が約9mmで、「減数分裂期」が近づいています。

- 山間高冷の「やまのしずく」は、幼穂長が約12mmで、「減数分裂期」が近づいています。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にして下さい。

□ 管内の生育調査結果（7月20日）

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数			葉数			葉色			幼穂長			
				本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差					
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/18	5/14	79.1	107	104	319	71	76	12.7	▲0.1	0.3	36.9	1.1	3.2	49.3	▲80.6	▲117.2
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/7	5/8	80.7	104	97	522	95	92	12.4	▲0.1	▲0.6	32.1	0.1	▲1.1	92.2	▲8.1	▲74.5
南部平坦平均 ひとめぼれ				5/12	5/11	79.9	105	101	420	83	84	12.6	▲0.1	▲0.2	34.5	0.6	1.1	70.8	▲44.4	▲95.9
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/23	5/20	76.1	107	98	404	78	77	11.3	0.0	▲0.1	43.8	1.3	3.2	4.5	2.1	▲0.1
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/4	5/4	78.1	106	101	388	93	90	11.8	▲0.4	▲0.1	36.1	▲2.3	▲0.4	14.8	▲6.1	▲19.2
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/13	5/15	70.0	105	94	391	112	90	11.6	▲0.2	▲1.1	42.9	5.4	5.5	9.1	▲34.0	▲86.2
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/23	5/22	65.1	101	98	478	105	100	10.3	▲0.4	▲1.2	40.8	▲2.2	▲0.6	12.2	▲9.8	▲22.3

◆ 平年値は前5か年(H28~R2)の平均値

※ 角田市「つや姫」は調査4年目のため過去3年の平均値を平年値とした。村田町「つや姫」は調査3年目のため過去2年の平均値を平年値とした。

□ 「だて正夢」調査ほ

- 南部平坦の「だて正夢」は、幼穂長約169mmで「穂ばらみ期」に入っており、間もなく出穂すると見込まれます。
- 西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長約4mmで、すでに「幼穂形成期」を過ぎようとしており、約1週間程度で「減数分裂期」に入ってくると見込まれます。
- 茎数は、南部平坦及び西部丘陵ともに前年並みに確保されており、葉色は、生育が進んでいる角田市展示ほでは、やや淡く、蔵王町展示ほでは前年並みになっています。

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/7	5/4	87.6	99	370	96	12.8	0.1	36.5	▲4.0	169.1	▲21
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/21	5/19	79.3	95	380	90	11.3	0.3	43.4	2.0	4.1	▲3.2

3 今後の管理

【出穂時期の予測】

- 出穂は、ほ場毎に異なります。幼穂長を測定するか、葉耳間長を確認して、出穂までの日数を把握しましょう。葉耳間長は、±0（葉耳が重なっている時期）が出穂10日前の目安です。

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
幼穂長	1~2mm	30~40mm	80~100mm
葉耳間長	-	-10cm	±0cm
出穂前日数	25日	15日	12日

- また、出穂は天候の推移により前後してきます。好天が続けば出穂期は早まり、低温日照不足が続けば生育が鈍化しますので天候の推移にも注意しましょう。

- 現在の生育状況からすると、平年並みの出穂期が見込まれます。5月前半に田植した中生品種（ひとめぼれ等）の場合、南部平坦地帯では、7月28日ごろから、西部丘陵地帯では8月初めごろから、山間高冷地帯では8月10日ごろから出穂してくると予想されます。

【水管理】

① 通常の水管理

- 出穂期までは、根に十分に水分を与えつつ酸素を供給できるように間断かん水としましょう。かん水して、自然に水がなくなった後、2～3日田面を乾かしてから、かん水して下さい。
- 出穂開花期は水を最も必要とする時期なので、浅水管理とします。
- 出穂開花期を過ぎたら、間断かん水を行いましょ。
- 収穫作業前の落水の適期は出穂後25日目頃が目安になりますが、ほ場の保水力（乾きやすさ）や天候による乾湿の状態などを考慮して決定しましょう。
- ◆倒伏が心配されるほ場では、間断かん水をする際に、田面を乾かす期間を長めにとり、根の健全化を図りましょ。

② 出穂後の高温時

- 出穂後の20日間で最低気温が23℃以上となる異常高温が連続するような場合、乳白粒などの「白未熟粒」による品質低下が発生するおそれがあります。高温時には、可能な限りの対策を取りましょ。

[対策の例]

掛流しかんがい	• 気温より温度の低い用水を十分に掛け流すことで、水温及び地温を湛水状態より低く抑える方法である。ただし、10aあたり毎分200～300リットル程度の用水が必要となる。
昼間深水・夜間落水管理	• 掛流しかんがいよりも水温及び地温を低下させる効果は小さいが、十分な用水量を確保できない場合でも実行しやすい方法である。 • 午前9～10時頃かん水し、気温が水温を下回り始める午後4時頃に落水する。
飽水管理	• 掛流しかんがい程の効果は得られないが、慣行（常時湛水）よりも夜間の最低地温が低くなるとともに、根の活力維持に効果がある。

【追肥】（田植えの遅いほ場など、これから必要となるほ場のみ）

- 減数分裂期をむかえると葉色が低下してくる傾向があります、必ずほ場毎にイネの生育状況を確認し、追肥の時期と量を判断ましょ。
- 穂揃期以降の急激な葉色低下は、高温時の白未熟粒の発生に繋がりがやすいので、登熟期間の窒素栄養を維持する減数分裂期の追肥を適切に実施ましょ。
- なお、中干しが不十分な場合や生育量が大きい場合は、慎重に判断ましょ。
- 追肥後は、一時的に「いもち病に対する抵抗力が弱まる」ので注意ましょ。
- 「だて正夢」は、減数分裂期に窒素成分で10aあたり2kg追肥することが基本です。

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・ まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

【 病 害 虫 防 除 】

①いもち病

- ・ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。
- ・梅雨明け以降、管内のアメダスポイントでは「いもち病」の感染に好適・準好適な条件は出現していますので、常発地帯では、ほ場の見回りをこまめに行い、早期発見・早期防除に努めてください。
(※JAこだわり米等に取り組んでいる場合は、防除の前にJAに相談してください。)

② 斑点米カメムシ類

- ・ **水田周辺の雑草地、けい畔等の草刈りは終了する時期です**
- ・ **穂揃期の薬剤防除に向けて準備を！**

□管内の出穂期は平年並の見込みです。今後の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込むことになるので、避けましょう。

□殺虫剤による薬剤防除

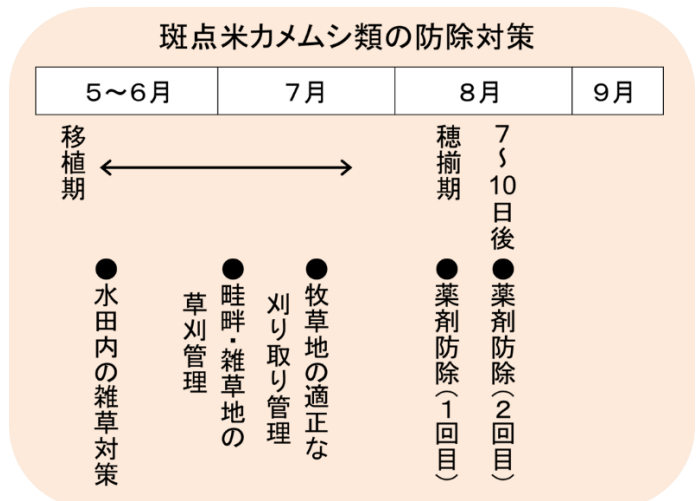
- ・薬剤防除は、穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本です。
- ・早生品種など周辺ほ場より出穂が早いと、被害が集中する危険性が高まりますので、穂揃期に遅れずに薬剤防除しましょう。

□薬剤防除は広域的に行うと効果が高いため、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。→残草がある場合は、1回目の防除時期を早めましょう(出穂始~穂揃期)。

< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ



4 直播栽培における管理のポイント

【7月20日調査結果】 ～現在、幼穂形成期です。穂いもち予防防除を！～

- ・湛水直播栽培の展示ほの生育については、幼穂長約4mmで幼穂形成期に達しています。
- ・生育は概ね順調に推移しており、昨年並に近づいています。

□ 直播きの生育調査結果(7月20日)

品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
	本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(mm)	前年差
ひとめぼれ	5/10	5/11	69.3	69.3	68.9	92	558	104	10.2	▲ 0.9	45.5	6.6	3.6	▲ 0.2

① 水管理

- ・中干し以降の水管理は、間断かん水を行いましょう。

② 追肥

- ・昨年よりも葉色が濃いので、減数分裂期の生育を確認して、減数分裂期の追肥を考慮しましょう。追肥量は窒素成分量で10a当たり1kgが基本です。
- ・減数分裂期になっても葉色が濃い場合など、倒伏等の恐れがある場合は追肥を控えましょう。

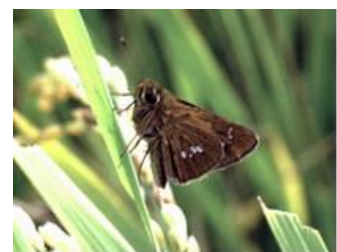
③ 病害虫防除

【いもち病】

- ・いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合がありますので、初発の確認が遅れないようしましょう。

【イネツトムシ(イチモンジセセリ)】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では7月中旬の葉色が濃いことから、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生状況を観察して、適期に防除しましょう。(概ね7月末から8月上旬)



幼虫 ツト(ツトの中に蛹がいます)
 図 イネツトムシの幼虫・ツト・成虫

○令和3年度宮城県農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)

○これから暑い時期を迎えます。熱中症に注意しましょう。